

天国に近づける交響曲

もう一度 会えた時、
きっと この曲が流れている。

ベルリン・フィルなどを振り、欧州で注目を浴びるロシアの鬼才

指揮 **マクシム・エメリヤニチェフ**

Conductor= MAXIM EMELYANYCHEV

楽器の新たな可能性を追求し、時代の先端を走る“チェンバロの革命児”

チェンバロ **マハン・エスファハニ**

Harpsichord= MAHAN ESFAHANI

メンデルスゾーン：序曲「フィンガルの洞窟」 作品26

MENDELSSOHN: Overture "The Hebrides", op. 26

スルンカ：チェンバロ協奏曲「スタンドスティル」 (日本初演)

SRNKA: Harpsichord Concerto "Standstill" (Japan Premiere)

シューベルト：交響曲第8番 ハ長調 D944 **「グレート」**

SCHUBERT: Symphony No. 8 in C major, D 944 "The Great"

読売日本交響楽団 第641回 定期演奏会

YNSO Subscription Concert No. 641

2024 9.5(木) 19:00 サントリーホール

Thursday, 5 September 2024, 19:00 Suntory Hall

S ¥8,000 / A ¥7,000 / B ¥6,000 / C ¥4,500

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時~18時・年中無休)

読 響
Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：アフラック生命保険株式会社



エメリヤニチェフが振る シューベルト

～活気に満ちた新感覚の「グレイト」～

ベルリン・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管、バイエルン放送響などに次々とデビューし成功を収め、欧州で引っ張りだこの鬼才エメリヤニチェフが、読響に初登場する。彼は、読響と数々の名演奏を築いたロジェストヴェンスキーに師事し、クルレンツィス率いるムジカエテルナで通奏低音奏者としても注目を浴びた。現在は古楽アンサンブル「イル・ポモ・ドーロ」とスコットランド室内管の首席指揮者を務めており、来年にはスウェーデン放送響の首席客演指揮者に就任する。今夏はザルツブルク音楽祭に招かれるなど、欧州で最もホットな若手指揮者の一人だ。

今回、メインに取り上げるのは、シューベルトの交響曲第8番「グレイト」。スコットランド室内管との最初の録音でも大きな評判となった彼の“勝負曲”の一つだ。現代的なビビットな感性と機敏でしなやかなタクトで、柔軟性のある読響の弦楽器群を巧みにリードし、腕利きの木管奏者をはじめとする各セクションとの有機的な会話を繰り広げること期待したい。美しいメロディが何度も繰り返される最終楽章では、天国へと次第に近づくかのような、陶酔的な美の境地へと誘うだろう。

1曲目のメンデルスゾーンの序曲「フィンガルの洞窟」は、波が打ち寄せるような描写が浮かぶ作品。エメリヤニチェフは、美しいメロディを繊細かつ劇的に歌い上げ、心地よい風を吹かせることだろう。

2曲目には、チェンバロという楽器の新たな可能性を追求し、独自の活動を展開している“チェンバロの革命児”エスファハニが登場。欧州で人気のチェコの現代作曲家スルンカのチェンバロ協奏曲「スタンドスティル」を日本初演する。2022年にケルン・ギュルツェニヒ管で初演されたこの曲は、チェンバロの概念を覆すようなエキセントリックな“アート作品”だ。環境音楽のような不思議な響きから、まるでテクノのようなリズムに満ち爆発する部分、奇想天外なラストまで一瞬たりとも目が離せない。エスファハニがクラシック音楽の新たな可能性を示してくれるだろう。エメリヤニチェフとエスファハニ、二人の才能がどのような化学反応を起こすのか、興味は尽きない。



指揮
マクシム・
エメリヤニチェフ



チェンバロ
マハン・
エスファハニ



「非凡なる才能」(タイムズ紙)、「繊細にして躍動的」(アーリーミュージック・トゥディ誌)など絶賛され、時代の最先端を走る“チェンバロの革命児”。1984年テヘラン生まれ。スタンフォード大学で音楽学と歴史を学び、ボストンでP.ウォッチャー、プラハでZ.ルージュチコヴァにチェンバロを師事。2015年BBCミュージック・マガジン年間最優秀新人賞。セゲルスタム、ピエロフラーヴェク、ヴォルコフ、ヴィトラ名匠の指揮で、BBC響、ケルン・ギュルツェニヒ管、イングリッシュ・コンサート、プラハ放送響、ベルゲン・フィルなどと共演。ブーランク、マルティヌー作品から、B.ティーンやG.ブライアーズ、B.ソアンセンら現代作曲家の協奏曲も弾き、チェンバロの新たな可能性を追求している。

読響日本交響楽団 第641回 定期演奏会

2024年 9月5日(木) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,000 / A ¥7,000 / B ¥6,000 / C ¥4,500

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>